

平成 23 年度
変更事業計画書

財団法人 車両情報センター

我が国の景気は、足踏み状態にあり、一部に持ち直しに向けた動きが見られるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。競輪の車券売上についても依然低迷を続け、取り巻く環境は一段と厳しさを増してきている。

このような状況を踏まえ、本財団は、お客様及び競輪関係団体のニーズに対応し、売上向上に資するシステムの開発・運用、システム開発・運用の効率化、システムの安全運用に努めるとともに、競輪関係団体と緊密な連携協調のもとに、競輪の発展に寄与するシステムの研究開発及び安定したシステムの運用管理の事業を展開することとする。

システムの研究開発については、費用対効果を十分に考慮し、平成23年度以降に保守限界を迎えるシステムについての次期車両情報システムの構築、インターネット投票システムの対応機種拡大、インターネット投票における重勝式投票及び発売時間の拡大等のサービス提供開始に伴うシステムの改修及び試験を行う。

また、平成20年度から次世代車両情報システムとして開発を開始し、平成21年10月から稼働を開始した「次世代トータルゼータシステム(TZS)」について、各拠点の円滑なシステム移行等システムの展開を実施し、平成23年10月を目途に全拠点の移行を完了させるとともに、これまでの改善要望に対して売上速報サービス等を実施するために必要な改修を行ってきているが、今後も引き続き必要な改修を行う。

システムの運用管理については、平成21年度に開始された次世代TZSの運用、前年度に開始されたKEIRIN.JP ストリーム、ミッドナイト競輪、リニューアルされたKEIRIN.JP 等に加え、本年度はインターネット投票における重勝式投票及び発売時間の拡大等のサービス開始に向けて競技関連、投票関連、情報提供関連、次世代TZS 関連及びKEIRIN.JP 関連の各業務に関して車両情報システム(VIS)を確実に、効率的かつ安定的に運用管理する。

システムの安全確保については、前年度においてシステム障害等が多発し、競輪開催運営に重大な影響を及ぼしたことを重く受けとめ、計画的なシステム保守の実施等障害の未然防止に努めるとともに、障害発生時にも迅速かつ的確に対処できるよう障害対応訓練を拡充して実施し、また、必要に応じて危機管理マニュアルの改訂を行う。

上記に加え、本財団の事業を効率的、効果的かつ適正に実施するため本年度は特に運用体制の強化を目指して事業・組織を見直すとともに、本財団を取り巻く環境の変化に対応するため、規程類の見直し、技術力の向上等本財団の運営管理の強化を図る。また、公益法人制度改革に対応するため、新法人移行に向けた所要の準備を進める。

さらに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被害・影響に対し、関係団体と連携して適宜対応する。

1. システムの研究開発

競輪関係団体においては、売上向上を目的として、サービス向上施策、新規事業・制度改正等を検討してきており、これらに系統的に対応するため及びシステムを巡る環境変化に対応するため、費用対効果を十分に考慮し、システムの開発等を行う。また、今後のシステム開発・運用管理に資する調査研究を行う。

(1) 次期車両情報システムの構築

平成23年度及び平成24年度に保守限界を迎える次のシステムについて、中期計画を策定のうえ、順次システムの構築・更新に着手する。

- ア. 電話投票システム
- イ. 音声応答システム（ASPサービス）
- ウ. 競輪ネットバンクシステム（一部銀行との接続システム）
- エ. 競技情報系システム（競輪情報検索システム（KISS）を含む。）
- オ. KEIRIN.JP 認証系システム
- カ. 通報系システム
- キ. 開催管理システム

(2) 重勝式投票システム・発売時間拡大のサービス提供開始に伴う開発

ア. 重勝式投票システムのサービス提供開始

平成22年11月に開発を完了した重勝式投票システムについて、複数の開催場でキャリアオーバーを引き継ぎながら発売する重勝式車券の発売母体となる一部事務組合が設立されるのに合わせて、インターネット投票での発売を開始することとし、必要な改修及び民間ポータルとの接続試験を行う。

イ. 発売時間拡大のサービス提供開始

深夜や早朝など、システム維持のために必要な時間を除きほぼ24時間インターネット投票を発売するシステムについて、重勝式車券の発売開始と合わせてサービスを開始することとし、必要な改修と試験を行う。

(3) 現行システムのフォローアップ

ア. インターネット投票システムの対応機種拡大

インターネット投票システムについて、最近急速に普及が進んでいるスマートフォンなど多様化する端末にも対応した投票環境を提供するため、必要な開発を実施する。

イ. 投票用携帯アプリの新規発売機種対応

投票用携帯アプリ「KEIRIN.JP on アプリ」について、サービスを提供している携帯電話キャリアの新規発売機種を対象に、動作確認試験を実施する。

ウ．インターネット投票システムの KEIRIN グランプリ 2011 対応

インターネット投票会員の更なる増加に対応し、投票の集中が予想される KEIRIN グランプリ 2011 開催時においても安定した投票環境を提供できるようにするため、利用や負荷の分析・展望及び必要な対応を実施する。

(4) その他開発

新規事業・制度改正等により、車両情報システムに改修等の必要が発生した場合、その内容に応じて関係団体と調整を行い、対応する改修を実施する。

(5) システム開発工程管理の強化

点検・確認リストの活用等システム開発工程管理を強化する。

(6) 調査研究

車両情報システムについて、評価分析、ニーズ、技術動向、あり方等の調査研究を継続して行う。

2 . 次世代トータリゼータシステムの展開

競輪政策決定会議の決定を受けて平成 2 0 年度から次世代車両情報システムとして開発を開始し、平成 2 1 年 1 0 月から稼働を開始した「次世代トータリゼータシステム (TZS) 」について、各拠点の円滑なシステム移行等システムの展開を実施し、平成 2 3 年 1 0 月を目途に全拠点の移行を完了させる。また、これまでの改善要望に対して売上速報サービス等を実施するために必要な改修を行ってきているが、今後も引き続き必要な改修を行う。

(1) 次世代 TZS への移行

本システムの主要機能については平成 21 年 10 月に開発が完了し、センターシステム及びネットワークシステムが稼働した。また、立川競輪場を皮切りに既に 5 6 拠点 (本場 2 7 拠点、場外場 2 9 拠点) においてシステム移行が実施され、稼働している。

前年度に引き続き、本年度は、5 1 拠点 (本場 1 8 拠点、場外場 3 3 拠点) において次世代 TZS への移行を行い、本年 10 月を目途に全ての拠点で移行を完了する。

(2) 次世代 TZS のフォローアップ

次世代 TZS に移行した各拠点より寄せられた改善要望について、売上速報サービス等を実施するために必要な改修を行ってきているが、今後も引き続き必要な改修を行う。

また、移行後の状況を確認するとともに安全稼働・運用を図るため初稼働時等に現地立会を実施する。

3．システムの運用管理

平成21年度に開始された次世代トータリゼータシステム（TZS）への移行、前年度に開始された KEIRIN.JP ストリーム、ミッドナイト競輪、リニューアルされた KEIRIN.JP 等に加え、本年度はインターネット投票における重勝式投票及び発売時間の拡大等のサービス開始が予定されていることを踏まえ、競技関連、投票関連、情報提供関連、次世代 TZS 関連及び KEIRIN.JP 関連の各業務に関して車両情報システム（VIS）を確実に、効率的かつ安定的に運用管理する。また、グレード開催等の現地立会い、VIS 利用者に対する講習会等を実施する。

（1）システム運用管理

次の業務を実施するため VIS の運用管理を行う。

ア．競技関連業務

競輪の開催に必要な関連情報を収集、蓄積、管理するとともに、開催運営に関する情報提供を行う。

イ．電話投票関連業務

電話投票、インターネット投票等に係る処理を迅速かつ正確に行う。

ウ．情報提供業務

施行者、関係団体に対し、競輪情報検索システム（KISS）等により情報提供を実施する。また電話投票加入者をはじめとするお客様及び報道機関等に対し、情報提供を実施する。

エ．次世代 TZS、票数通報関連業務

次世代 TZS による発売、払戻等の処理を行うとともに、未導入場における票数通報を迅速かつ正確に行う。

オ．KEIRIN.JP 関連業務

KEIRIN.JP のデータ更新、KEIRIN.JP ストリームによる映像配信等を実施する。

（2）新稼働システムの運用管理

本年度よりサービスを開始するインターネット投票による重勝式発売及び発売時間の拡大等、新規事業に対応したシステムを円滑に運用管理する。

- (3) グレード開催等の現地立会い
 グレード開催等の本場における運用サポートを行うため、現地立会いを実施する。
- (4) 品川マシン室設備環境の整備
 機器の入れ替えに際して、品川マシン室内の効率的利用と安全性の確保を考慮して、現用機及び開発機を適正に配置する。
- (5) 講習会の開催
 開催業務の概要、システム障害の未然防止及び障害発生時の迅速かつ適切な対応を内容として、統制業務の実務担当者を対象とした「統制業務実務担当者講習会」を開催する。また、次世代 TZS の操作習熟を目的とした「TZS オペレーション講習会」を開催する。

4 . システムの安全確保

前年度においてシステム障害等が多発したことを重く受けとめ、計画的なシステム保守の実施等障害の未然防止に努めるとともに、障害発生時に迅速かつ的確に対処できるよう障害対応訓練を拡充して実施し、また、必要に応じて危機管理マニュアルの改訂を行う。さらに、運用管理体制の強化を図る。

- (1) システム障害の未然防止
 - ア . システムの保守
 システム障害を未然防止するために、計画的にシステム保守を実施する。
 - イ . システム監視、データバックアップ等
 総合監視システムにより VIS の稼働状況（業務処理及びシステムの生存）を一元的かつ的確に監視する。また、システム障害の未然防止及び障害発生時の復旧に活用するため、ログデータの収集、データのバックアップ等を実施する。
- (2) システム障害対応訓練等の実施
 - ア . システム障害対応訓練の実施
 システム開発会社のサポートを得て、運用委託会社とともにシステム障害対応訓練を拡充して実施する。
 - イ . リハーサルの実施
 G 以上の開催に際し、災害・障害時の対応について、施行者、自転車競技会及び保守担当者等との連携を強化するためのリハーサルを実施する。

(3) 障害発生時の対応

システム障害発生時には、危機管理マニュアルに基づき、迅速で的確な対応を実施する。また、これまでの危機管理状況を精査し、現行の危機管理マニュアルを見直すとともに、新稼働システム、システム障害発生事例等を反映して適宜改訂する。

(4) 障害情報の共有化

システム障害発生時には、障害情報を関係する各拠点及び関係団体等に迅速に連絡するとともに、障害情報を定期的に全拠点及び関係団体等に報告する等障害情報の共有化を図る。

(5) 情報セキュリティ対策

個人情報保護法を遵守するとともに、VIS へのアクセス制限等管理を徹底する。また、KEIRIN.JP を対象としたアプリケーション診断及びネットワーク診断を実施し、セキュリティの一層の向上を図るために必要な対応を実施する。

(6) 運用体制の強化

インターネット投票における重勝式発売及び発売時間の拡大等のサービス開始に伴い、運用管理時間が大幅に拡大するとともに、民間ポータルサイト等他システムとの接続が拡大することから、システムの安全運用に万全を期すため管理体制の強化を図る。

また、障害発生時に迅速に対応するため、現在、品川と市ヶ谷に分散している事務所を品川に一元化するとともに、勤務体制の抜本的な見直しについて、検討する。

5 . 財団の運営管理

(1) 財団の運営管理の強化

本財団の事業を効率的、効果的かつ適正に実施するとともに、車両情報システムの研究開発、次世代車両情報システムの展開及びシステムの運用管理の事業拡大等に対応するため、次の事項を実施する。

ア . 事業・組織の見直し

事業を効率的・効果的かつ適正に実施するため、本年度は特に運用体制の強化を目指して事業・組織を見直す。

イ . 規程類の見直し

本財団を取り巻く環境の変化に対応するため、規程類を総合的に見直す。

ウ . 職員研修による知見・能力の向上

本財団職員の知見・能力向上を図るため、積極的に研修を実施するとともに外部研修に参加する。

エ．入札による適正な調達

本財団の調達について、透明性、公正性、競争性を向上させるため、関係規程を政府調達に準じて改正し、競争性のない随意契約の比率について30%未満を目指す。

オ．システムの外部監査

システムの外部監査を実施する。

(2) 公益法人制度改革対応

公益法人制度改革に対応するため、本財団のあり方等を検討し、新法人移行に向けた所要の準備を進める。

6．東日本大震災等への対応

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災・影響に対して関係団体と連携して適宜対応するとともに、類似の大規模災害への対応について検討する。

(1) システム利用料の減額等

東日本大震災の被害・影響による施行者等の負担を軽減するため、発売場について、本財団の利用料を4月分として10%減額する。また、大震災の影響で発売しない場について、要望に基づき利用料の支払いを猶予する。

(2) システム対応

当初予定されていた開催・発売について、中止、延期、変更等が生じる場合には、施行者や関係団体と連携してシステムの円滑かつ確実に対応するように努める。

(3) 危機管理マニュアル等の見直し

東日本大震災について今回の状況・対応を評価検討し、危機管理マニュアル、安否確認、停電・通信遮断時への対応、節電対策、帰宅困難者対応、事務室・マシン室の地震対策等を見直す。

(4) 事業継続計画(BCP)の調査研究

大規模災害等により本財団の事業が継続できなくなる事態に関する調査研究を行う。

平成 23 年度

事業計画書

財団法人 車両情報センター

我が国の景気は、足踏み状態にあり、一部に持ち直しに向けた動きが見られるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。競輪の車券売上についても依然低迷を続け、取り巻く環境は一段と厳しさを増してきている。

このような状況を踏まえ、本財団は、お客様及び競輪関係団体のニーズに対応し、売上向上に資するシステムの開発・運用、システム開発・運用の効率化、システムの安全運用に努めるとともに、競輪関係団体と緊密な連携協調のもとに、競輪の発展に寄与するシステムの研究開発及び安定したシステムの運用管理の事業を展開することとする。

システムの研究開発については、費用対効果を十分に考慮し、平成23年度以降に保守限界を迎えるシステムについての次期車両情報システムの構築、インターネット投票システムへの対応機種拡大、インターネット投票における重勝式投票及び発売時間の拡大等のサービス提供開始に伴うシステムの改修及び試験を行う。

また、平成20年度から次世代車両情報システムとして開発を開始し、平成21年10月から稼働を開始した「次世代トータルゼータシステム(TZS)」について、各拠点の円滑なシステム移行等システムの展開を実施し、平成23年10月を目途に全拠点の移行を完了させるとともに、これまでの改善要望に対して売上速報サービス等を実施するために必要な改修を行ってきているが、今後も引き続き必要な改修を行う。

システムの運用管理については、平成21年度に開始された次世代TZSの運用、前年度に開始されたKEIRIN.JP ストリーム、ミッドナイト競輪、リニューアルされたKEIRIN.JP 等に加え、本年度はインターネット投票における重勝式投票及び発売時間の拡大等のサービス開始に向けて競技関連、投票関連、情報提供関連、次世代TZS 関連及びKEIRIN.JP 関連の各業務に関して車両情報システム(VIS)を確実に、効率的かつ安定的に運用管理する。

システムの安全確保については、前年度においてシステム障害等が多発し、競輪開催運営に重大な影響を及ぼしたことを重く受けとめ、計画的なシステム保守の実施等障害の未然防止に努めるとともに、障害発生時にも迅速かつ的確に対処できるよう障害対応訓練を拡充して実施し、また、必要に応じて危機管理マニュアルの改訂を行う。

上記に加え、本財団の事業を効率的、効果的かつ適正に実施するため本年度は特に運用体制の強化を目指して事業・組織を見直すとともに、本財団を取り巻く環境の変化に対応するため、規程類の見直し、技術力の向上等本財団の運営管理の強化を図る。また、公益法人制度改革に対応するため、新法人移行に向けた所要の準備を進める。

1. システムの研究開発

競輪関係団体においては、売上向上を目的として、サービス向上施策、新規事業・制度改正等を検討してきており、これらに系統的に対応するため及びシステムを巡る環境変化に対応するため、費用対効果を十分に考慮し、システムの開発等を行う。また、今後のシステム開発・運用管理に資する調査研究を行う。

(1) 次期車両情報システムの構築

平成23年度及び平成24年度に保守限界を迎える次のシステムについて、中期計画を策定のうえ、順次システムの構築・更新に着手する。

- ア. 電話投票システム
- イ. 音声応答システム（ASPサービス）
- ウ. 競輪ネットバンクシステム（一部銀行との接続システム）
- エ. 競技情報系システム（競輪情報検索システム（KISS）を含む。）
- オ. KEIRIN.JP 認証系システム
- カ. 通報系システム
- キ. 開催管理システム

(2) 重勝式投票システム・発売時間拡大のサービス提供開始に伴う開発

ア. 重勝式投票システムのサービス提供開始

平成22年11月に開発を完了した重勝式投票システムについて、複数の開催場でキャリアオーバーを引き継ぎながら発売する重勝式車券の発売母体となる一部事務組合が設立されるのに合わせて、インターネット投票での発売を開始することとし、必要な改修及び民間ポータルとの接続試験を行う。

イ. 発売時間拡大のサービス提供開始

深夜や早朝など、システム維持のために必要な時間を除きほぼ24時間インターネット投票を発売するシステムについて、重勝式車券の発売開始と合わせてサービスを開始することとし、必要な改修と試験を行う。

(3) 現行システムのフォローアップ

ア. インターネット投票システムの対応機種拡大

インターネット投票システムについて、最近急速に普及が進んでいるスマートフォンなど多様化する端末にも対応した投票環境を提供するため、必要な開発を実施する。

イ. 投票用携帯アプリの新規発売機種対応

投票用携帯アプリ「KEIRIN.JP on アプリ」について、サービスを提供している携帯電話キャリアの新規発売機種を対象に、動作確認試験を実施する。

ウ．インターネット投票システムの KEIRIN グランプリ 2011 対応

インターネット投票会員の更なる増加に対応し、投票の集中が予想される KEIRIN グランプリ 2011 開催時においても安定した投票環境を提供できるようにするため、利用や負荷の分析・展望及び必要な対応を実施する。

(4) その他開発

新規事業・制度改正等により、車両情報システムに改修等の必要が発生した場合、その内容に応じて関係団体と調整を行い、対応する改修を実施する。

(5) システム開発工程管理の強化

点検・確認リストの活用等システム開発工程管理を強化する。

(6) 調査研究

車両情報システムについて、評価分析、ニーズ、技術動向、あり方等の調査研究を継続して行う。

2 . 次世代トータリゼータシステムの展開

競輪政策決定会議の決定を受けて平成 2 0 年度から次世代車両情報システムとして開発を開始し、平成 2 1 年 1 0 月から稼働を開始した「次世代トータリゼータシステム (TZS) 」について、各拠点の円滑なシステム移行等システムの展開を実施し、平成 2 3 年 1 0 月を目途に全拠点の移行を完了させる。また、これまでの改善要望に対して売上速報サービス等を実施するために必要な改修を行ってきているが、今後も引き続き必要な改修を行う。

(1) 次世代 TZS への移行

本システムの主要機能については平成 21 年 10 月に開発が完了し、センターシステム及びネットワークシステムが稼働した。また、立川競輪場を皮切りに既に 5 6 拠点 (本場 2 7 拠点、場外場 2 9 拠点) においてシステム移行が実施され、稼働している。

前年度に引き続き、本年度は、5 1 拠点 (本場 1 8 拠点、場外場 3 3 拠点) において次世代 TZS への移行を行い、本年 10 月を目途に全ての拠点で移行を完了する。

(2) 次世代 TZS のフォローアップ

次世代 TZS に移行した各拠点より寄せられた改善要望について、売上速報サービス等を実施するために必要な改修を行ってきているが、今後も引き続き必要な改修を行う。

また、移行後の状況を確認するとともに安全稼働・運用を図るため初稼働時等に現地立会を実施する。

3．システムの運用管理

平成21年度に開始された次世代トータリゼータシステム（TZS）への移行、前年度に開始された KEIRIN.JP ストリーム、ミッドナイト競輪、リニューアルされた KEIRIN.JP 等に加え、本年度はインターネット投票における重勝式投票及び発売時間の拡大等のサービス開始が予定されていることを踏まえ、競技関連、投票関連、情報提供関連、次世代 TZS 関連及び KEIRIN.JP 関連の各業務に関して車両情報システム（VIS）を確実に、効率的かつ安定的に運用管理する。また、グレード開催等の現地立会い、VIS 利用者に対する講習会等を実施する。

（1）システム運用管理

次の業務を実施するため VIS の運用管理を行う。

ア．競技関連業務

競輪の開催に必要な関連情報を収集、蓄積、管理するとともに、開催運営に関する情報提供を行う。

イ．電話投票関連業務

電話投票、インターネット投票等に係る処理を迅速かつ正確に行う。

ウ．情報提供業務

施行者、関係団体に対し、競輪情報検索システム（KISS）等により情報提供を実施する。また電話投票加入者をはじめとするお客様及び報道機関等に対し、情報提供を実施する。

エ．次世代 TZS、票数通報関連業務

次世代 TZS による発売、払戻等の処理を行うとともに、未導入場における票数通報を迅速かつ正確に行う。

オ．KEIRIN.JP 関連業務

KEIRIN.JP のデータ更新、KEIRIN.JP ストリームによる映像配信等を実施する。

（2）新稼働システムの運用管理

本年度よりサービスを開始するインターネット投票による重勝式発売及び発売時間の拡大等、新規事業に対応したシステムを円滑に運用管理する。

- (3) グレード開催等の現地立会い
 グレード開催等の本場における運用サポートを行うため、現地立会いを実施する。
- (4) 品川マシン室設備環境の整備
 機器の入れ替えに際して、品川マシン室内の効率的利用と安全性の確保を考慮して、現用機及び開発機を適正に配置する。
- (5) 講習会の開催
 開催業務の概要、システム障害の未然防止及び障害発生時の迅速かつ適切な対応を内容として、統制業務の実務担当者を対象とした「統制業務実務担当者講習会」を開催する。また、次世代 TZS の操作習熟を目的とした「TZS オペレーション講習会」を開催する。

4 . システムの安全確保

前年度においてシステム障害等が多発したことを重く受けとめ、計画的なシステム保守の実施等障害の未然防止に努めるとともに、障害発生時に迅速かつ的確に対処できるよう障害対応訓練を拡充して実施し、また、必要に応じて危機管理マニュアルの改訂を行う。さらに、運用管理体制の強化を図る。

- (1) システム障害の未然防止
 - ア . システムの保守
 システム障害を未然防止するために、計画的にシステム保守を実施する。
 - イ . システム監視、データバックアップ等
 総合監視システムにより VIS の稼働状況（業務処理及びシステムの生存）を一元的かつ的確に監視する。また、システム障害の未然防止及び障害発生時の復旧に活用するため、ログデータの収集、データのバックアップ等を実施する。
- (2) システム障害対応訓練等の実施
 - ア . システム障害対応訓練の実施
 システム開発会社のサポートを得て、運用委託会社とともにシステム障害対応訓練を拡充して実施する。
 - イ . リハーサルの実施
 G 以上の開催に際し、災害・障害時の対応について、施行者、自転車競技会及び保守担当者等との連携を強化するためのリハーサルを実施する。

(3) 障害発生時の対応

システム障害発生時には、危機管理マニュアルに基づき、迅速で的確な対応を実施する。また、これまでの危機管理状況を精査し、現行の危機管理マニュアルを見直すとともに、新稼働システム、システム障害発生事例等を反映して適宜改訂する。

(4) 障害情報の共有化

システム障害発生時には、障害情報を関係する各拠点及び関係団体等に迅速に連絡するとともに、障害情報を定期的に全拠点及び関係団体等に報告する等障害情報の共有化を図る。

(5) 情報セキュリティ対策

個人情報保護法を遵守するとともに、VIS へのアクセス制限等管理を徹底する。また、KEIRIN.JP を対象としたアプリケーション診断及びネットワーク診断を実施し、セキュリティの一層の向上を図るために必要な対応を実施する。

(6) 運用体制の強化

インターネット投票における重勝式発売及び発売時間の拡大等のサービス開始に伴い、運用管理時間が大幅に拡大するとともに、民間ポータルサイト等他システムとの接続が拡大することから、システムの安全運用に万全を期すため管理体制の強化を図る。

また、障害発生時に迅速に対応するため、現在、品川と市ヶ谷に分散している事務所を品川に一元化するとともに、勤務体制の抜本的な見直しについて、検討する。

5 . 財団の運営管理

(1) 財団の運営管理の強化

本財団の事業を効率的、効果的かつ適正に実施するとともに、車両情報システムの研究開発、次世代車両情報システムの展開及びシステムの運用管理の事業拡大等に対応するため、次の事項を実施する。

ア . 事業・組織の見直し

事業を効率的・効果的かつ適正に実施するため、本年度は特に運用体制の強化を目指して事業・組織を見直す。

イ . 規程類の見直し

本財団を取り巻く環境の変化に対応するため、規程類を総合的に見直す。

ウ . 職員研修による知見・能力の向上

本財団職員の知見・能力向上を図るため、積極的に研修を実施するとともに外部研修に参加する。

エ．入札による適正な調達

本財団の調達について、透明性、公正性、競争性を向上させるため、関係規程を政府調達に準じて改正し、競争性のない随意契約の比率について 30%未滿を目指す。

オ．システムの外部監査

システムの外部監査を実施する。

(2) 公益法人制度改革対応

公益法人制度改革に対応するため、本財団のあり方等を検討し、新法人移行に向けた所要の準備を進める。